

CASBEE-建築(新築)2014年版
米子オペレーションセンター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.0)

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								2.6
1 音環境								3.0
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								1.6
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								2.9
3.1 屋光利用								
1 屋光率								
2 方位別開口								
3 屋光利用設備			屋上トップライトを計画					
3.2 グレア対策								
1 屋光制御								
3.3 照度			照度700lxを確保					
3.4 照明制御								
4 空気環境								3.7
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質			建築基準法に準拠した仕上げ材					
4.2 換気								
1 換気量			中央管理方式の空調換気設備					
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮			給気設備の適切配置					
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								3.3
1 機能性								3.4
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応			コンセント容量100VA/m ² 、複数通信事業者、Gigabitネットワーク					
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観			CH2800mm					
2 リフレッシュスペース			リフレッシュルームの確保					
3 内装計画			内装仕上げの検討・コンセプトの立案					
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								3.0
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性			3.4	0.20			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20			
3	電気設備	発電機、UPS、地下設置の回避	4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	光・メールの複数配線、複数通信事業者、地下設置の回避、UPS	5.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.4	0.30			3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30			
1	階高のゆとり	4.2m階高	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	大きな外壁面	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30			
3.3 設備の更新性			3.0	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		1.0	0.20			
3	電気配線の更新性	専用EPS、配線トレンチピット、OAフロア、配線管路の整備	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	将来設備ルートの確保	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				0.30			2.3
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.5
LR1 エネルギー				0.40			3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.3	0.20			4.3
2 自然エネルギー利用		トップライトの採用	4.0	0.10			4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.77 住宅(専有部) -	4.0	0.50			4.0
	集合住宅以外の評価(3a,3b)		4.0	1.00			
	集合住宅の評価(3c)						
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00			
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
	集合住宅の評価						
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル				0.30			2.9
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1	節水	節水コマの採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60			2.7
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	ユニット式OAフロアの採用	4.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20			3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	F☆☆☆☆建材の利用	4.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70			
1	消火剤						
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				0.30			3.7
1 地球温暖化への配慮			5.0	0.33			5.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用しない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.33			
2	振動		3.0	0.33			
3	悪臭		3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制						
3	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	LEDによる照明効率の向上、ルーバーによるグレアカット、漏れ光の抑	5.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			